令和２年度の主な事業について　地域子ども体験活動事業補助金について

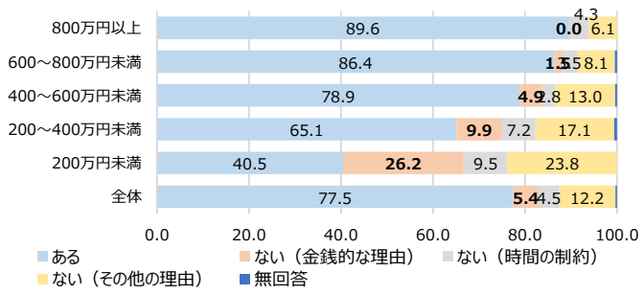
資料５

（１）背景

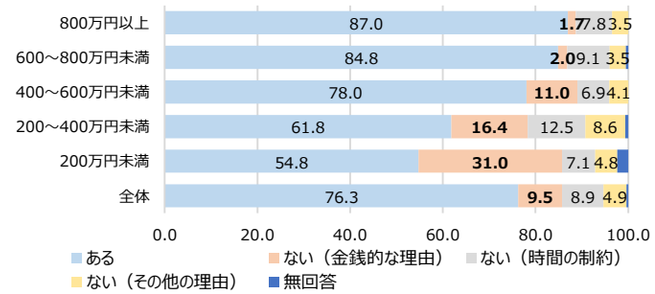
家庭の経済的な理由により、学びの機会が限られる子どもたちの支援が必要になっている。
令和元年度の調査から、世帯年収が低い世帯ほど、習い事などの体験活動に参加する機会も少なく、また、子ども主体の活動に参加させたい意向が高い反面、保護者主体の活動に対する参加意欲は低い状況が明らかになっている。
そこで、子どもが身近に参加できる環境をつくり、そこで様々な体験活動を通して仲間や地域の人とふれ合う時間をもち、人間性や社会性を身に着ける機会を提供する。

R1調査：習い事、家族旅行の体験は、世帯年収が低い世帯で「金銭的な理由から体験機会がない」が全体平均より高い。

●習い事の参加状況
（小学生、世帯年収別）　n=772

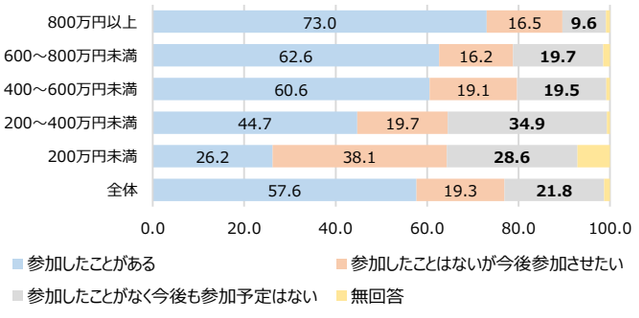


●家族旅行に行く体験機会
（小学生、世帯年収別）　n=772

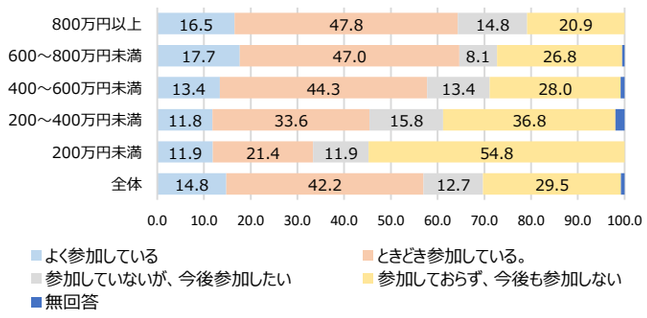


R1調査：世帯年収が低い世帯では、子ども主体の活動に「今後参加させたい」とする割合が高いが、保護者主体の活動には「今後も参加しない」が全体平均を上回る。これらの世帯では、保護者を通して情報にアクセスする機会の格差も生じやすい。

●お子さんの地域やｸﾞﾙｰﾌﾟ活動への参加について
（小学生、世帯年収別）n=772



●保護者の子育てｻｰｸﾙやPTAなど自主活動の参加状況
（小学生、世帯年収別）n=772



（２）取組の方向性

子どもの貧困の連鎖を断ち切るための施策

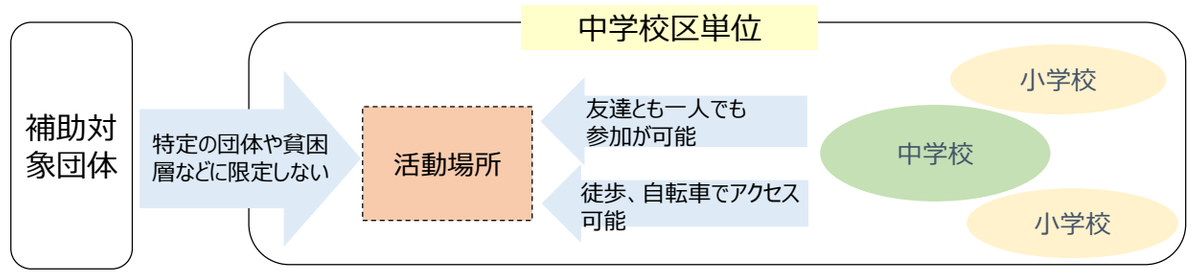
教育支援の充実 ＋ 地域での体験とつながり

子ども自らが現在や将来を選択し、能力や可能性を伸ばすための体験・学習機会の提供

①家庭の所得に左右されない
②現物支給
③子どもだけでアクセスできる環境
④自らの意思で参加できる
⑤子どもと身近な教育現場で後押しできる事業

（３）募集

《事業実施イメージ》



《募集要項・要点》

趣　　旨	体験活動を通して仲間や地域の人と楽しく幸せな時間を過ごせる機会を設けること
補助対象	子どもとその家庭を地域で支える活動をしているか、または予定している団体及びグループ
対象事業	地域の子どもたち（小中学生）を対象に実施する以下の事業 ①活動場所は、市内の概ね中学校区内 ②実施頻度は、年間２回以上、１回当たり概ね２時間以上 ③概ね10人以上の受入可能、保険加入、衛生管理
対象経費	講師謝金、チラシ等の印刷費、食材費、損害保険料、賃借料など
補助金額	上限10万円
応募期間	令和２年６月１日～19日
選考方法	子ども・子育て会議に専門部会を設置
審査基準	子どもの年齢に相応しい活動、参加のしやすさ（子どもだけでの参加） 実施頻度と活動時間、安全・衛生、活動の継続性、資金計画、活動実績、広報活動ならびに子どもの参加に対する創意工夫など

（３）経緯と見通し

《経緯》

専門部会の設置：５名（子ども・子育て会議４名、特別委員１名）
専門部会①：5/7（書面）、募集要項等審査
専門部会②：７/1、５団体選定　こども食堂：２団体
　　外遊び、プレーパーク：２団体
　　こどもキャンパス（岩見沢校）：１団体
概算払い申請（８月17日現在）：３団体

《見通し》

・団体のうち３団体が活動に着手済。
・未着手の２団体は、活動内容等の変更も含め動きを確認中。